

同姓同名

この頃、間違い電話が頻繁にかかってくる。かけてくる相手はいろんな証券会社の営業担当者。株取引の口座を作って欲しいという営業の電話なのである。間違い電話の理由を調べたところ、ユーグレナという会社がマザーズに株式を上場することになり、有価証券届出書が金融庁経由で国内の証券会社に渡っているとのこと。その中の株主欄に「氏名：伊藤恭、住所：東京都杉並区、所有株式数：1,500、所有株式数の割合：0.06%」という記載があるらしい。残念ながら私が出資したことはなく全くの人違い。実はこの人物は伊藤恭（やすし）という名の税理士さんで杉並区久我山に住んでいる。証券会社の営業マンが「伊藤恭・杉並区」をネットで検索すると、100%私にたどり着くのである。言うまでもないが私の本名は伊藤恭（きょう）である。「恭」は「やすし」とも読むが表記上は全く同じである。とにかく迷惑な話なのだが、事情を証券会社の営業マンに説明すると納得してくれる。

余談だが、私は伊藤恭（きょう）という名前は超レアな名前でも同姓同名者など滅多にいるものではないと思っていた。ところが電話番号検索で「伊藤恭（きょう）」を検索すると、「伊藤恭（きょう）」という電話契約者が実に日本中に二十数人いる。実はネットで「伊藤恭（きょう）」を検索すると私の他に2人の「伊藤恭（きょう）」という人物が引っかかる。一人は大分県のドクターで、温泉療法の専門家として有名な方で2度ほどテレビ出演しているところを拝見した。もうひとりとはピグマリオンという教育法の考案者である幼児教育の大家である。生きているうちに、一度、この方々と会ってみたいものだと思う。

実は「伊藤 恭」という名前は姓名判断でみるとあまりいい名前ではないらしい。特に「恭」は10画でこの画数を毛嫌いする人はたくさんいる。ところが、こんなレアな名前でも、私は別にしても、著名な方が2人もいるということは、この名前も捨てたものではない。小さい頃は、「オヤジはヘンな名前をつけたもんだ」とずっと思っていたが、この考えは改めなくては行けない。それに、この名前はおぼえてもらいやすいという利点もある。

※無断転用を禁じます。